



また、境町の受賞理由について鎌田実東京大学名誉教授（選考委員長）は、「住民がバス停留所に私有地を提供したり、住民の自発的な支援によって路上駐車が増えるなど、町全体が自動運転バスの運行を迎え入れている」と行政や事業者だけでなく、町全体の取り組みであることを評価されました。

地域住民の皆さんの取り組みが高く評価されました



# 第1回 (2021年度) クルマ・社会・パートナーシップ大賞表



# 第1回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞受賞



日本自動車会議所  
内山田竹志会長  
(トヨタ自動車会長)

茨城県境町  
橋本正裕町長

## 行政や事業者だけでなく町全体での取り組みが評価され最高賞の「大賞」受賞



いきいきクラブ連合会  
寺山守 会長

いきいきクラブで乗車会を実施したりしています。自動運転バスがあると高齢者の私たちが移動が可能になりますし、社会参加するために利用しています。自動運転バスでもっともっと幸せに、もっともっと楽しくという思いで普及活動をさせていただいています。

## 移動手段のない高齢者や子育て世代 誰もが生活の足に困らぬ町を目指します

令和4年2月7日(月)、境町が栄える第1回「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」(日本自動車会議所主催・内山田竹志会長)で最高賞となる大賞を受賞しました。今回が初めての開催で、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインとの併催で行われました。今回の表彰は、自動運転バスの全国的な実用化に向け、公道での実証実験を行っている取り組みが評価されたことによるものです。

表彰式には橋本町長が参加し、内山田会長より表彰状を受けとり、「何の変哲もない境町で自動運転バスが実用化できたのは、政治や技術の力だけでは解決が難しい部分を、町民の皆さんが一生懸命に使いこなそうと協力してもらった結果です。」と述べました。

自動車業界で働く人々や、自動車ユーザーを含めた自動車にかかわる全ての方々が、わが国の社会や自動車業界に果たしている貢献に対して、「ありがとう」と感謝の意を伝え、表彰を通じて、それぞれの貢献の取り組みにあらためて注目を集め、認知を広げることで同じような取り組みが拡大する一助とするものです。

**境町が最高賞である大賞を受賞**

クルマ・社会・パートナーシップ大賞とは



↑当日はシンパシーホールと東京の会場を中継でつなぎ、自動運転バスの運行・普及・活用にご協力いただいた住民の方と、自動運転バスを運行するBOLDLY(株)の皆さんとくす玉を割り大賞受賞の瞬間の喜びを分かち合いました。

